

日本労働年鑑 第55集 1985年版  
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

XI 労働組合と平和・社会運動

概要

一、第五五回メーデーは、五月一日、代々木公園の中央会場に三〇万人、全国一二二五カ所で約三八八万人が参加した。なお、メーデーのあり方について、今年から一部変更があった。

一、原水爆禁止八三年世界大会は、八月一～三日国際会議、八月六日世界大会・ヒロシマのひろば、八月八～九日原水爆禁止世界大会・長崎、という日程で開かれ、世界大会・長崎には約一万人が参加した。

一、原水爆禁止世界大会を前後して、原水禁・原水協・核禁会議はそれぞれ、被爆三八周年原水禁大会(八月四～六日広島大会、八月七日長崎のつどい・結集集会、八月一〇～一一日国際連帯会議、九月二一～二三日、沖縄大会)、原水協主催の独自行事(七月三〇日国民平和大行進東京集結集会、七月三一日国際協力をすすめる会議、八月五日世界大会の成功をめざすヒロシマ集会、八月七日国際連帯集会、八月八日全体集会)、核禁会議全国集会(八月五日、長崎)を開催した。

一、三月一日、焼津市でビキニデー中央集会が開かれ二五〇〇人が参加した。この日をはさむ二月二九日～三月六日、三〇周年記念週間行事が取り組まれた。

一、八三年と八四年の世界大会準備委員会をめぐって、とくに、(1)恒常的組織結成、(2)六・二四反トマホークデー、(3)平和行進での団体旗自粛などの問題で一定の紛糾が生じ、平和委員会と原水協選出の代表委員・運営委員が交代した。

一、反核・軍縮・平和運動としては、反核・軍縮・平和のための東京行動(八三年一〇月二四日)、反核シンポ(八四年二月二四日)、沖縄国際会議(四月二六～三〇日)、核軍縮二人委員会の提言(五月二八日)、科学者京都会議声明(六月二三日)などが取り組まれた。

一、反戦闘争としては、戦争犠牲者追悼・反戦・平和式典などの八・一五関連の行事、東京大空襲記念集会や再び許すな東京大空襲！反戦平和の集いなどの三・一〇東京大空襲関連の行事などが取り組まれた。なお、一〇・二一国際反戦デーは三年つづきで分裂集会となった。

一、反軍・反基地・反安保闘争としては、池子弾薬庫返還市民大会、日米共同演習反対舞鶴集会、日米合同陸上実動演習抗議集会、下総基地米軍使用反対集会、富士山麓総行動、ミッドウェー艦載機訓練基地反対集会、グリーンベレー配備抗議行動などが取り組まれた。とくに、反トマホーク運動が強力に展開され、反トマホーク全国統一行動やトマホーク配備反対全国抗議行動、反トマホーク行動デーなどがおこなわれた。

一、その他の運動としては、反金権・田中辞職要求運動、雇用平等法制定要求運動、教育改革を

めぐる運動、北方領土返還要求運動、憲法擁護運動、政党法反対運動などがあつた。

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---